

2023年8月30日(水)

「水木しげる 魂の漫画展」を鑑賞して

『ゲゲゲの鬼太郎』で知られる水木さんの出身地である鳥取県境港市を皮切りに 2017 年から全国で始まった「水木しげる 魂の漫画展」全国展覧会が、コロナ禍を経て今月 8 月から山梨県笛吹市の山梨県立博物館で開催されていると知り、出かけてきました。水木さんの作品は、現在のコンピューターを駆使した漫画と違って、すべて手作業で描かれており、色づけに使った絵筆や絵皿などが展示されています。それらを通して、制作にかけた情熱や喜び、息づかいまでもが伝わって来ました。

また、太平洋戦争の激戦地であったニューブリテン島での従軍と敗戦、そこで体験した生命との戦いと鎮魂が、後の水木さんの作品に込められていることが感じられる内容です。この極限的な体験は、客観化して作品にするまでに 28 年もの時間が必要であり、私たちの想像をはるかに超える重みをもっています。

水木さんが有名になる直前、1960 年代前半という時代は、日本の漫画界にとっては激変期であり、「トキワ荘」から育った漫画家たちが次々に独立し、「週刊少年サンデー」「週刊少年マガジン」という二大漫画雑誌が創刊された時で、ちょうど私の小学生時代と重なります。当時、貸本から雑誌デビューした『墓場の鬼太郎』は、私にとっては少し異質な感じでしたが、鬼太郎のテレビ放映が始まると、一気に風向きは変わり大人気となりました。『ゲゲゲの鬼太郎』と改称された作品は、誰もが一度聞いたら忘れないという熊倉 一雄さんの歌う主題歌(作詞:水木 しげる、作曲:いずみ たく)と共に、子どもたちに大きなインパクトを与えました。⁵

本展覧会は、1922 年に生まれた武良(水木さんの本名)少年が境港で『地獄極楽絵図』に心を奪われた当時から、2015 年 11 月に亡くなる直前までの絶筆まで、初公開の資料も多く、水木さんの多彩な画業に迫る姿に大いに感動し、魅力を感じる展覧会でした。

参考文献

釈 徹宗・中条 省平・佐野 史郎・ヤマザキ マリ(2023)『別冊 NHK100 分 de 名著 水木しげる ―「わが道」の達人』NHK 出版, 158 頁。